

嘉麻市水道事業 経営戦略

[改定版]

概要版



令和6年3月
嘉麻市水道局
Kama City Waterworks

1 策定の経緯と主旨

嘉麻市の水道事業は、昭和 38 年（1963）より給水を開始しました。その後、大量更新期の到来や人口減に伴う料金収入の減少等により、経営環境が厳しさを増していく中で、将来にわたって安定的な事業を継続するため、平成 30 年度に「嘉麻市水道事業経営戦略」を策定しました。以降、水道事業を取り巻く環境は絶えず変化を続け、全国で多発する自然災害等に対する備えや、人口減少社会の到来による水需要の低下に対応可能な施設の整備計画や経営計画を立てることが急務となっています。こうしたことから、現経営戦略策定から 5 年が経過するため、改めて水道事業の現状を分析、評価することで改定を行いました。計画期間は、令和 6 年度（2024）から令和 15 年度の 10 年間です。



図 1-1 経営戦略の位置づけ

2 水道事業の概要

2.1. 事業及び施設の概要

本市水道事業は、計画給水人口 35,000 人、計画給水量 14,400m³/日として、安全で安定した水の供給に努めています。

令和 4 年度（2022）において給水人口は 31,867 人と市全体の 90%程度、給水区域面積は 43.84km²と市全体の 30%程度を占めています。

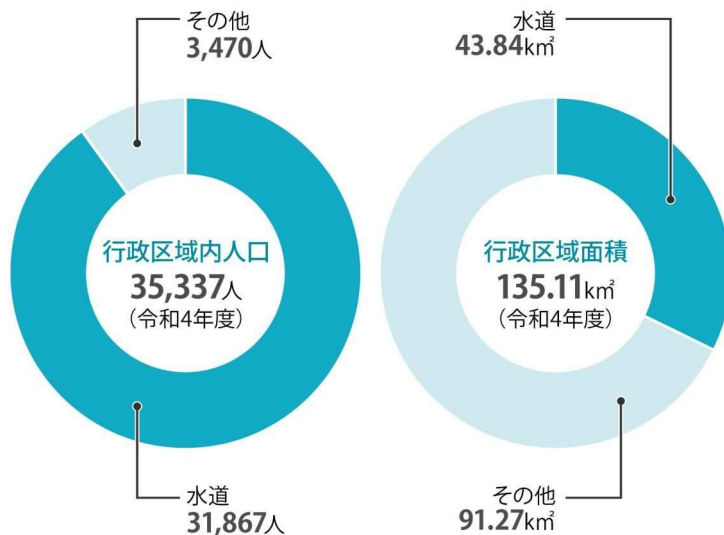


図 2-1 事業の概要

表 2-1 水道施設の概要

項目		水道施設の概要
水源	表流水	3,178 m ³ /日
	伏流水	7,841 m ³ /日
	浅井戸	1,351 m ³ /日
	深井戸	0 m ³ /日
	湧水	-
	計	12,370 m ³ /日
施設数	浄水場	6 箇所
	配水池	15 箇所
管路延長	導水管	3,982 m
	送水管	10,389 m
	配水管	331,768 m
	計	346,139 m
施設能力		15,960 m
一日平均給水量		10,779 m ³ /日
施設利用率		68.20 %

2.2. 料金

2.2.1. 現行の料金体系の概要

本市水道事業において、10m³使用時及び20m³使用時の水道料金を以下に示します。

表 2-2 10m³、20m³使用時の水道料金(消費税込み)

事業名	10m ³	20m ³	備考
水道	1,408 円	3,058 円	φ13(一般用)

以下に福岡県内の事業体における家庭用水道料金を示します。

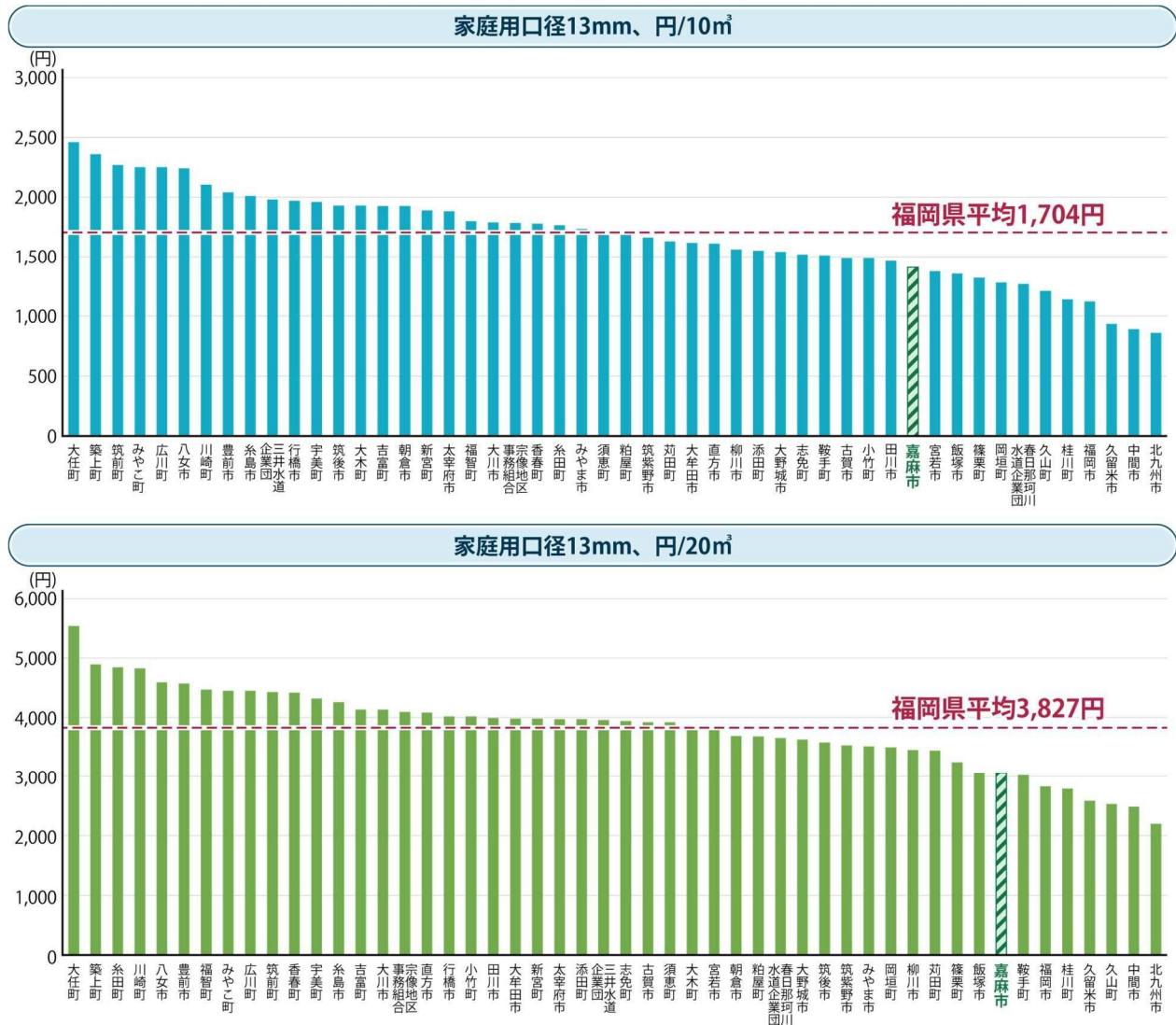


図 2-2 家庭用水道料金

本市における1ヶ月当たりの家庭用水道料金は、福岡県内では、10m³及び20m³当たりいずれも平均より低い料金となっています。

2.2.2. 現行の料金体系を採用している考え方等

総括原価方式の料金体系です。これにより、人件費や減価償却費等の営業費用、設備更新や企業債償還等の資本費用を考慮し、それらを賄うために必要な収入を確保することを目的としています。

3 将来の事業環境

3.1. 給水人口・給水量

令和4年(2022)において、本市の給水人口は31,867人、有収水量は9,442m³/日、一日最大給水量は14,600m³/日でした。10年後の令和15年(2033)には、給水人口は24,798人(22.2%減)、有収水量は7,920m³/日(16.1%減)、一日最大給水量は13,207m³/日(9.5%減)まで減少する見込みです。水量は、人口の増減に影響を受けるため、人口の減少が続く限り有収水量は減少する見込みです。

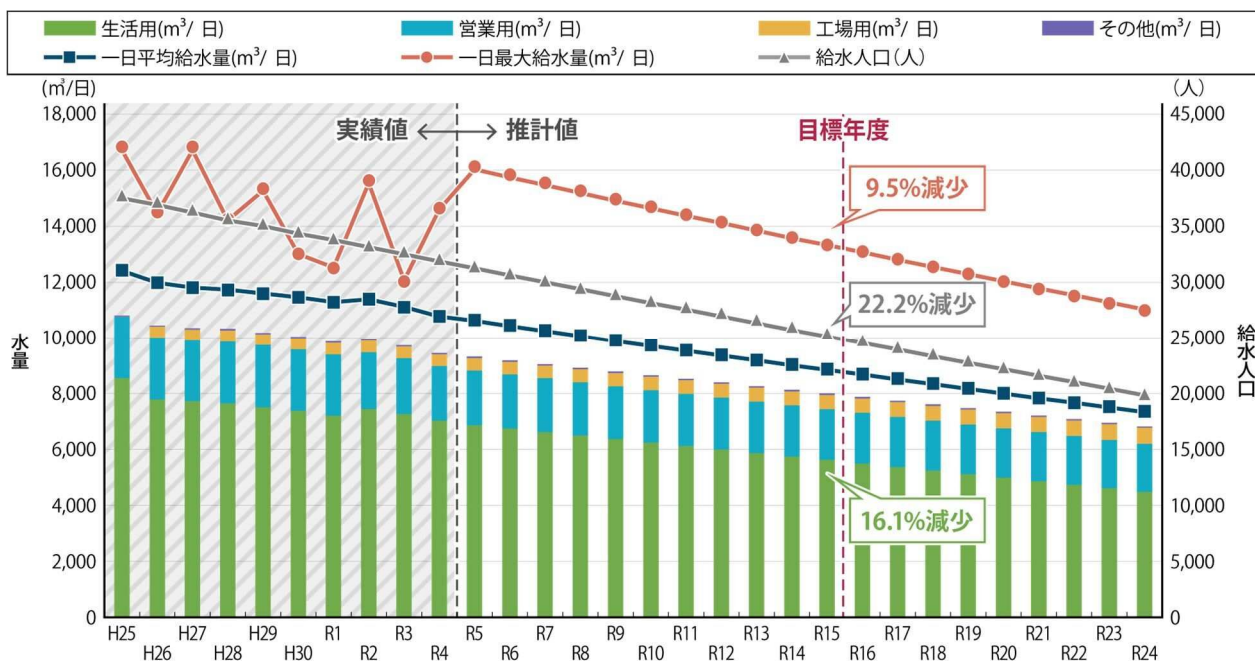


図 3-1 給水人口および給水量の見通し

3.2. 施設の見通し

構造物及び設備、管路について、現時点では健全資産、健全管路が大部分を占めています。

しかし、構造物及び設備において、15年後には健全資産が50%を下回り、資産の半分以上が経年化、老朽化資産となり、また、管路においては、20年後に健全管路が50%を下回り、さらに40年後には半分以上が老朽化管路となる見込みです。

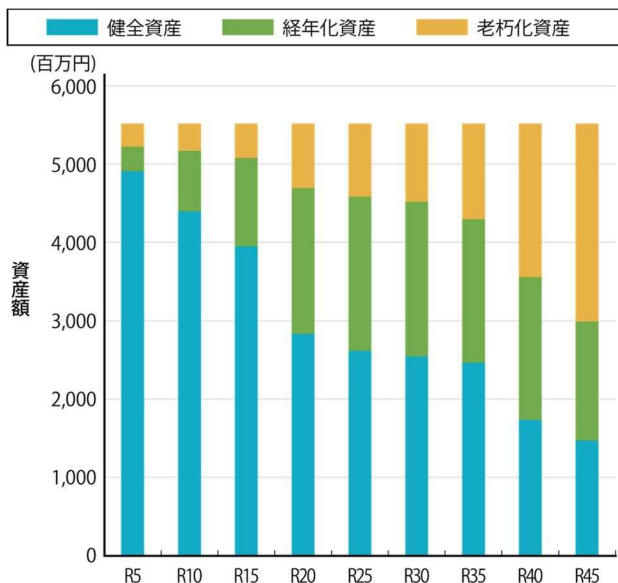


図 3-2 構造物・設備の老朽化

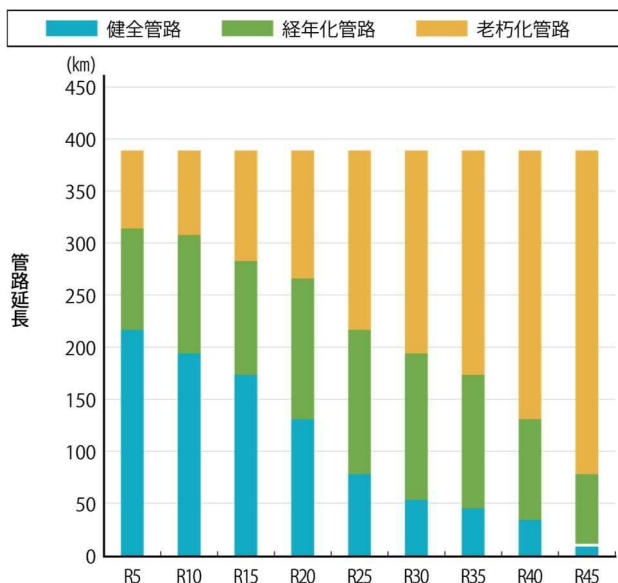


図 3-3 管路の老朽化

4 経営の基本方針

4.1. 「地域水道ビジョン」に沿った事業運営

平成 26 年度（2014）に策定した「地域水道ビジョン」に示した将来像「安心できる水を将来へ」を目指して、事業経営を行っています。

「地域水道ビジョン」では、安全、強靱、持続を踏まえた 50 年、100 年先の将来を見据えた本水道事業の理想像として、以下の目標を掲げています。



図 4-1 「地域水道ビジョン」に沿った経営方針

本目標を実現するため、今後の水道事業運営に努めていきます。

※鉛製給水管は解消済みです。

5 投資財政計画

5.1. 投資についての説明

5.1.1. 老朽化施設の更新

老朽化した水道施設及び管路の更新により、施設能力の向上や漏水率の低減が見込まれます。

これらの更新については、アセットマネジメントにより更新需要の平準化等を考慮した投資計画を踏まえ、中長期的な経営を見通したうえで、料金改定及び企業債の借入れを考慮し、財政を逼迫しない範囲で更新費を設定し、今後予定される施設の統廃合、施設診断・更新評価結果を踏まえた前倒し、先送り等を考慮して、計画的な施設・設備、管路の更新を行っています。

また、令和 5 年 3 月に策定した嘉麻市水道事業施設・管路更新計画に沿い、更新を行っています。

5.1.2. 水道施設の耐震化

水道施設の耐震化については、施設の更新時に耐震性を有する設計、管材を用いることで対応を行っています。

5.1.3. 事業費の見込

令和 15 年度（2033）までに実施する事業費については、経営状況、更新計画を踏まえ、浄水場や配水池の更新予定がない年度は 2 億円/年を見込みます。

更新計画では、令和 9 年度（2027）に尾浦配水池を令和 13～14 年度（2031～2032）に中益浄水場を更新する予定であるため、上記年度については、単年度 2 億円の更新事業費を加算した費用を見込みます。

5.2. 財源についての説明

5.2.1. 給水収益の減少

本水道事業の給水収益は、近年の有収水量傾向と同様に減少傾向にあり、今後也有収水量の減少が見込まれるため、現行料金では、給水収益はさらに減少する見込みです。

このため、本計画では、令和9年度（2027）以降の経常損益の黒字化及び内部留保資金の確保を考慮し、料金改定を見込みます。本計画では、計画期間まで経常損益が黒字で推移する50%を改定率として設定しています。

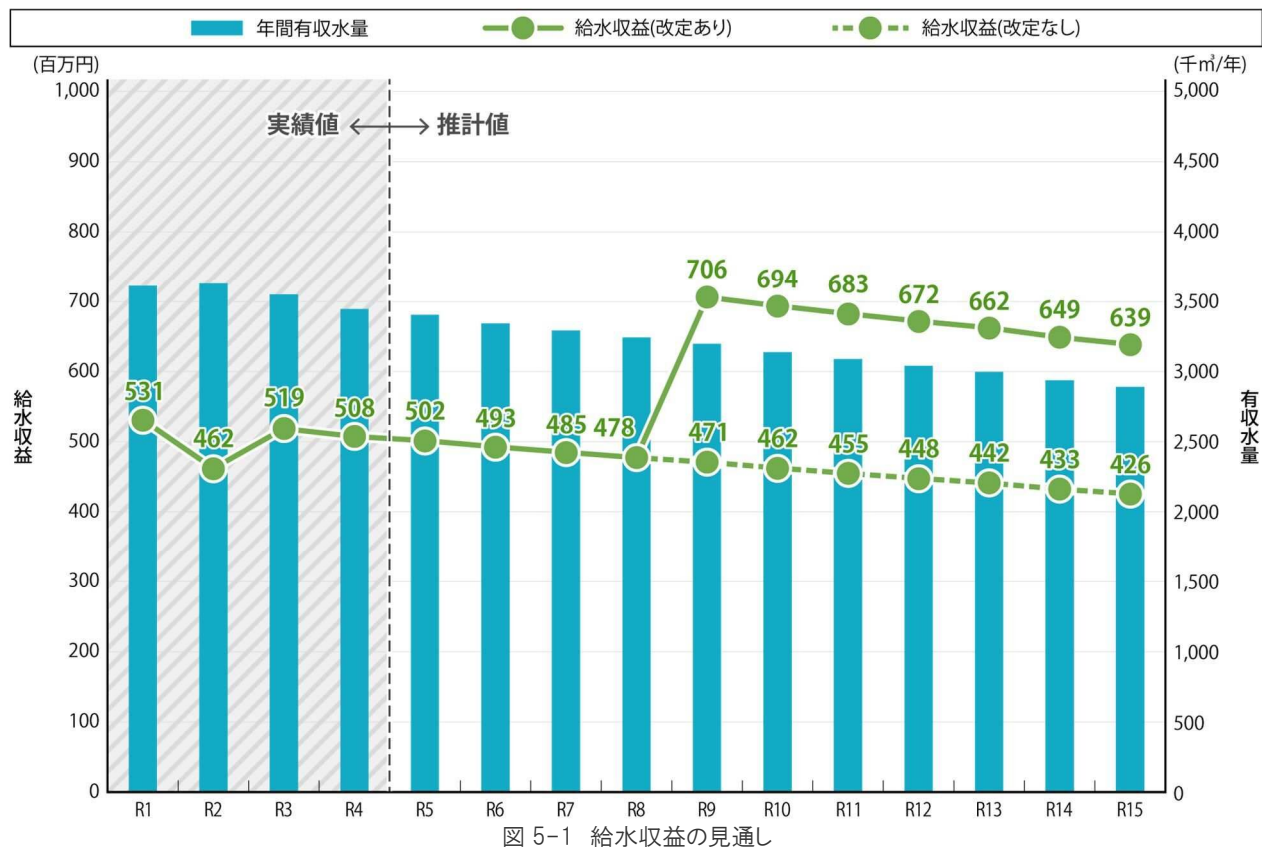


図 5-1 給水収益の見通し

5.2.2. 給水収益について今後の取組み

平成21年度（2009）以降、料金改定は行わず、経費の削減等経営努力により、収支の健全化を目指してきましたが、今後も老朽化した施設や設備の更新が必要になり、また、社会情勢の変化等による給水収益の悪化等、経営努力だけでは対応できない状況が想定されます。

このため、本計画においては、令和9年度（2027）に料金改定を見込み、計画期間内の収支ギャップの解消を図ることとしますが、今後につきましては、毎年度の決算状況等の考察を行い、料金水準の妥当性を検証し、料金改定について検証を行っていきます。

5.2.3. その他の主な財源について

その他の主な財源については、令和9年度（2027）の尾浦配水池及び、令和13～14年度（2031～2032）の中益浄水場の更新工事費に対しては、企業債で100%補填することとします。

5.3. 試算結果

投資・財政計画にて試算を行った結果を示します。

料金改定を行うことで、計画期間内で経常損益について黒字を確保することができます。内部留保資金についても現状と同程度の金額で推移します。

なお、参考として、料金改定を行わなかった場合と、料金改定率 30%とした場合の試算結果についてもグラフに掲載しています。

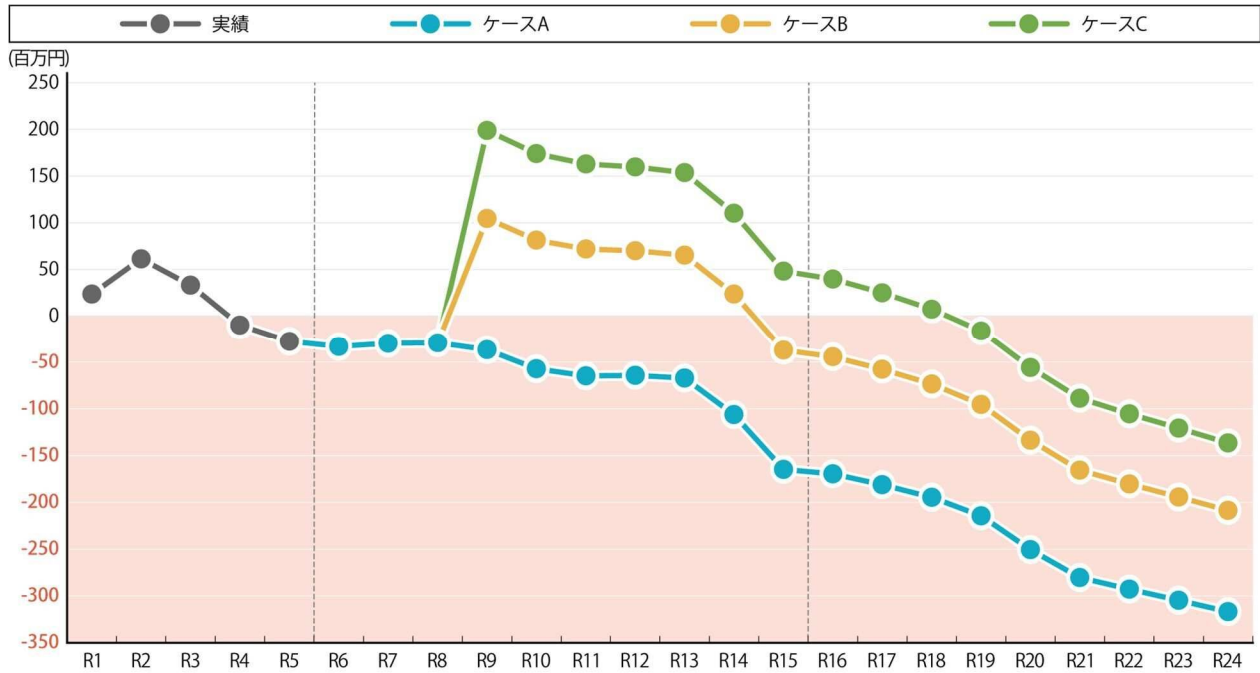


図 5-2 経常損益試算結果

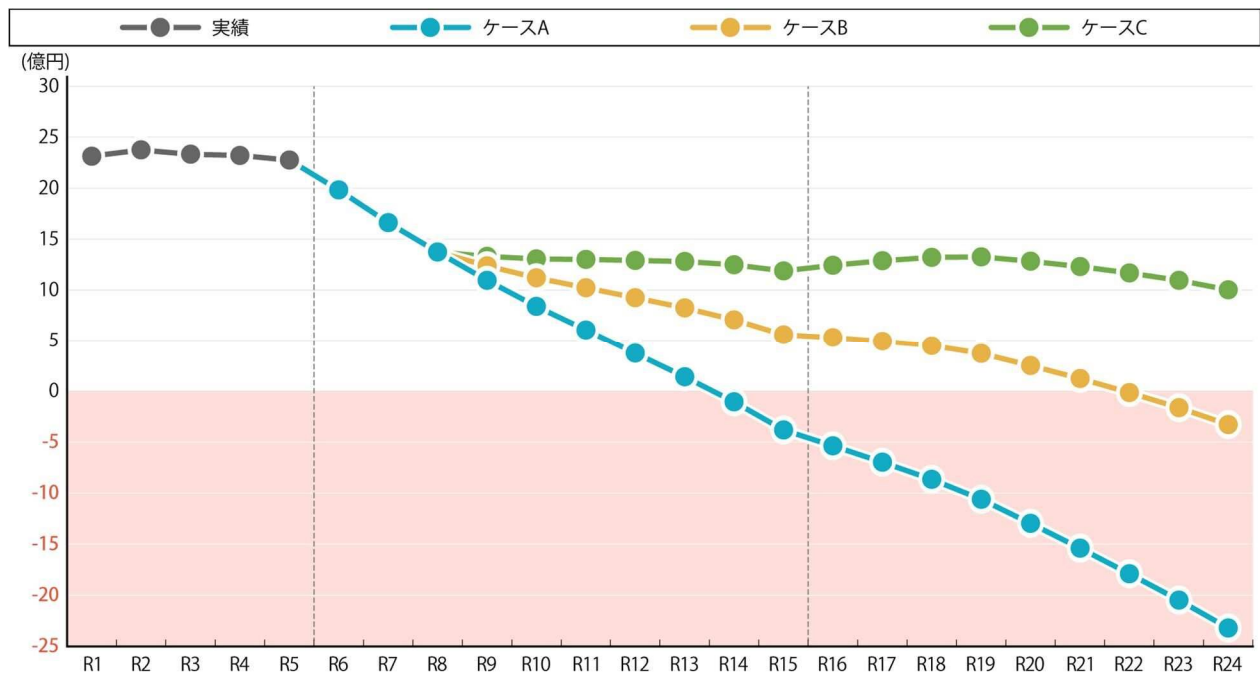


図 5-3 内部留保資金試算結果

6 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、更新等に関する事項として、以下の取り組みを行います。

- 1 定期的に給水実績と水需要予測結果を比較して、
大きな相違点がある場合は、その原因を明らかにします
- 2 定期的に決算状況と本財政計画を比較して、
大きな相違点がある場合は、その原因を明らかにします
- 3 定期的に事業計画の進捗状況を明らかにするため、
実施予定に対する進捗管理を行います

上記 3 項の点検を経営戦略の事後検証として 2～3 年毎に行います。また、この結果を踏まえ、5 年毎に水需要予測、財政計画、事業計画の見直し検討を行います。



図 6-1 PDCA サイクル

